

報告書

テーマ：里山海道の暮らしと看護

申請者名：石垣和子

助成対象年度：2013年度前期

提出年月日：2013年11月14日

日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会

開催概要（プログラム）

〔学術集会長講演〕 テーマ：「里山海道の暮らしと看護」

演者 石垣和子（石川県立看護大学）

座長 成田伸（自治医科大学）

〔シンポジウム〕 テーマ：「当たり前を生と死を求めて」

座長 稲垣美智子（金沢大学）

池野二三子（公立能登総合病院）

シンポジスト 浅見洋（石川県立看護大学）

高山千弘（エーザイ株式会社）

清水えり子（白山ろく訪問看護ステーション）

〔交流集会〕 テーマ：「諸外国に見るへき地看護」

話題提供者 神里みどり（沖縄県立看護大学）

大湾明美（沖縄県立看護大学）

塚田久恵（石川県立看護大学）

〔ラウンドテーブル（市民公開）〕

テーマ：「遠く離れて暮らす家族・人々をつなぐ看護システム
～導入事例の紹介と体験、そして意見交流～」

話題提供者 北山秋雄（長野県看護大学）

ファシリテーター 永井優子（自治医科大学）

織田初江（石川県立看護大学）

〔一般演題（口演）〕

第1群 へき地における保健活動の特徴

座長 春山早苗（自治医科大学）

口演1-1 地区組織との協働におけるしまの市町村保健師の現状と課題

○中尾八重子、山谷麻由美

長崎県立大学シーボルト校

口演1-2 中山間地区における保健師活動の特徴

○山崎洋子

山梨大学大学院医学工学総合研究部

口演1-3 半島地域における保健活動の特徴

○石垣和子 1)、金子紀子 1)、大湾明美 2)、宮崎美砂子 3)、山本春江 4)、
阿部智恵子 1)、織田初江 1)、塚田久恵 1)、曾根志穂 1)、川島和代 1)、
浅見洋 1)、角地孝洋 1)

1) 石川県立看護大学、2) 沖縄県立看護大学、3) 千葉大学、

4) 青森県立保健大学

第2群 へき地におけるさまざまな支援

座長 永井優子（自治医科大学）

- 口演2-1 遠隔ケアシステム構築のための災害高齢被災者の生活実態予備調査
○北山秋雄 1)、安田貴恵子 1)、柄澤邦江 1)、吉村隆 2)、佐藤清湖 2)
1) 長野県看護大学、2) 長野県看護大学里山看護学分野大学院生
- 口演2-2 ルーラルにおける終末期療養場所のニーズとその背景
○浅見洋 1)、中村順子 2)、伊藤智子 3)、諸岡了介 4)、塚田久恵 1)、彦聖美 1)、浅見美千江 5)、大永慶子 6)
1) 石川県立看護大学看護学部、2) 秋田大学大学院医学系研究科、
3) 島根県立大学看護学部、4) 島根大学教育学部、
5) 石川県立看護大学キャリア支援センター、
6) 石川県立看護大学大学院
- 口演2-3 非侵襲的陽圧換気療法中患者の在宅療養へ向けた他職種との関わり
○寺井智佳子、受川志津子、加納真由美
社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院
- 口演2-4 Primary Study on the Relationship between Grip Strength and Fall among the Older Adults in Rural Japan
○Kazuyo K. Sooudi, PhD
Sapporo City University

第3群 離島・へき地における看護師確保と質向上

座長 大湾明美（沖縄県立看護大学）

- 口演3-1 中核病院における離島支援看護活動とそのマネジメントの観点
○知念久美子 1)、神里みどり 2)、野口美和子 3)
1) 沖縄県病院事業局県立病院課代替看護師派遣事業、
2) 沖縄県立看護大学大学院、3) 元沖縄県立看護大学大学院
- 口演3-2 都道府県第11次へき地保健医療計画におけるへき地診療所およびへき地医療拠点病院看護職の確保・支援の実態
○春山早苗 1)、塚本友栄 1)、今道英秋 2)、神田健史 3)、森田喜紀 3)、古城隆雄 3)、前田隆浩 4)、谷憲治 5)、井口清太郎 6)、澤田努 7)、中澤勇一 8)、角町正勝 9)、梶井英治 3)
1) 自治医科大学看護学部、2) 自治医科大学救急医学、
3) 自治医科大学地域医療学センター、4) 長崎大学大学院、
5) 徳島大学大学院、6) 新潟大学大学院、7) 高知医療センター、

- 8) 信州大学医学部、9) 前社団法人日本歯科医師会
- 口演 3-3 へき地医療機関に派遣経験を持つ看護職が期待するへき地での研修内容
—派遣経験後1年(未満)経過した看護職からの聞き取り—
○山崎不二子 1)、稗圃砂千子 2)、大重育美 2)
1) 福岡女学院看護大学、2) 長崎県立大学
- 口演 3-4 看護部教育委員会の研修を振り返る
○横井祐子、小谷薫、金森敦志
恵寿総合病院看護部

[一般演題(示説)]

第1群 離島・へき地における子育て

座長 田村須賀子(富山大学)

- 示説 1-1 “しま”で暮らす子育て期家族の家族資源の実態
○法橋尚宏、本田順子
神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野
- 示説 1-2 山間地域の保育士と保健師との連携に関する課題
○柄澤邦江 1)、脇坂幸子 2)、塩原智子 2)、神澤絢子 2)
1) 長野県看護大学、2) 飯田女子短期大学
- 示説 1-3 発達障害を危惧した児に保健福祉資源を適用させる山間地保健師の支援の
特徴
○田村須賀子
富山大学大学院医学薬学研究部(地域看護学)

第2群 地域文化とケアシステムづくり

座長 大川嶺子(沖縄県立看護大学)

- 示説 2-1 沖縄県伊平屋村に伝わる民間療法
—健康を守るために使われている主な材料とその有効性—
○石川幸代 1)、比嘉憲枝 2)
1) 沖縄県立看護大学、2) 公立大学法人名桜大学
- 示説 2-2 高齢者たちによる自主活動“模合”の特徴 —小離島の事例—
○長嶺由利子 1)、大湾明美 2)、佐久川政吉 2)、田場由紀 2)、山口初代 2)、
糸数仁美 2)
1) 座間味村役場、2) 沖縄県立看護大学
- 示説 2-3 地域文化の視点からの住民理解の試み —「違和感」を入口にして—
○大川嶺子
沖縄県立看護大学

- 示説 2-4 「楽しく老いる島づくり」の実践モデル構築をめざして
○大西美智恵
香川大学医学部看護学科
- 示説 2-5 積雪寒冷地で生活する地域高齢者の主観的幸福感を規定する要因の検討
○坂倉恵美子、原井美佳、村松真澄
札幌市立大学大学院看護学研究科
- 示説 2-6 山間地域の高齢者健康管理システムの構築
ータブレット型携帯情報端末を活用している高齢者を対象とした調査ー
○藤井智恵子 1)、松下恭子 2)
1) 近大姫路大学、2) 徳島大学

第3群 へき地における教育

座長 北村久美子（旭川大学）

- 示説 3-1 へき地診療所における看護実習生の『学び』から教育効果を考える
○太田雅恵 1)、高瀬佳子 1)、安陪こず恵 1)、桑原ひとみ 1)、高尾順圭 1)、
河村智子 1)、村瀬奈美 1)、鈴木忠広 1)、佐藤勝 2)
1) 哲西町診療所、
2) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座
- 示説 3-2 A市B地区の元気高齢者から得た看護学生の学び
○岡田初恵、大谷順子
旭川大学保健福祉学部保健看護学科
- 示説 3-3 A県のへき地医療拠点病院看護職からみた地元看護系大学への役割期待
○坂本雅代 1)、齋藤美和 1)、杉本加代 1)、阿波谷敏英 2)
1) 高知大学医学部看護学科、2) 高知大学医学部家庭医療学
- 示説 3-4 北海道のへき地における早期体験実習の実践
○藤井智子 1)、塩川幸子 1)、杉山さちよ 1)、北村久美子 2)
1) 旭川医科大学、2) 旭川医科大学（非常勤）

第4群 へき地における看護師確保

座長 山崎不二子（福岡女学院看護大学）

- 示説 4-1 離島の看護を支える看護師研修プログラム作成に向けた取り組み
ー僻地での派遣看護師受け入れ施設のインタビュー調査からー
○大重育美 1)、稗圃砂千子 1)、山崎不二子 2)
1) 長崎県立大学シーボルト校看護学科、2) 福岡女学院看護大学
- 示説 4-2 小離島における島外入院から在宅看取りに向けた診療所看護師の準備ケア
○美底恭子 1)、大湾明美 2)、山口初代 2)
1) 沖縄県立八重山病院附属波照間診療所、2) 沖縄県立看護大学

- 示説 4 - 3 看護職員募集における再就業看護師への情報提供の実態
ー能登北部と南加賀医療圏にある病院ホームページの分析からー
○田村幸恵、丸岡直子、石垣和子
石川県立看護大学

第 5 群 へき地における保健看護提供

座長 川島和代（石川県立看護大学）

- 示説 5 - 1 医療変革期にある過疎地域小規模公立病院の看護管理者の体験
○土佐峯子
木古内町国保病院
- 示説 5 - 2 地域医療における急性・重症患者看護専門看護師の役割と課題の一考察
○吉田紀子、村上礼子、中村美鈴
自治医科大学看護学部 成人看護学
- 示説 5 - 3 がん化学療法導入時の病棟看護師による患者の援助ニーズ
○川本ことえ、小原智恵子、宮下侑奈、塩井美枝子、福島美津子
珠洲市総合病院
- 示説 5 - 4 離島保健師の生活と地域看護活動を結び付けている認識
○青木さぎ里、春山早苗
自治医科大学看護学部
- 示説 5 - 5 配偶者を亡くした高齢遺族に対する介護支援専門員によるケアの実態
～実態から行政保健師の役割を考える～
○佐野香利 1)、山崎洋子 2)
1) 山梨大学大学院医学工学総合教育部、
2) 山梨大学医学工学総合研究部

第 6 群 地域生活と療養生活

座長 佐久川政吉（沖縄県立看護大学）

- 示説 6 - 1 山間過疎地高齢者における社会的ネットワークと精神的健康との関連について
○須永恭子 1)、立瀬剛志 2)、田村須賀子 1)、山田広明 3)、小林俊哉 4)
1) 富山大学大学院医学薬学研究部、2) 富山大学地域医療・保健支援部門、3) 北陸先端科学技術大学院大学、4) 九州大学科学技術イノベーション政策教育研究センター
- 示説 6 - 2 地域アセスメントにおける生活者の視点の活用方法の検討
ー小離島での生活者のインタビューからー
○糸数仁美 1)、大湾明美 1)、佐久川政吉 1)、田場由紀 1)、山口初代 1)、

牧内忍 1)、長嶺由利子 2)、渡真利木綿子 2)

1) 沖縄県立看護大学、2) 座間味村役場

示説 6 - 3 当事者の語りによる高齢者の“生きがい就労”の実態とニーズ 第 1 報
- 男性高齢者の場合 -

○山口初代 1)、大湾明美 1)、佐久川政吉 1)、田場由紀 1)、玉城咲 1)、
大川嶺子 1)、糸数仁美 1)、坂東瑠美 2)、前泊博美 2)

1) 沖縄県立看護大学、2) いけま福祉支援センター

示説 6 - 4 当事者の語りによる高齢者の“生きがい就労”の実態とニーズ 第 2 報
- 女性高齢者の場合 -

○坂東瑠美 1)、山口初代 2)、大湾明美 2)、佐久川政吉 2)、田場由紀 2)、
前泊博美 1)

1) いけま福祉支援センター、2) 沖縄県立看護大学

示説 6 - 5 軽度の脳梗塞を発症した後期高齢者の再梗塞予防に向けた生活状況の実態
○藤瀬政寛、鍛冶かつみ、梅田久美子、羽根まどか
珠洲市総合病院 2 階南病棟

〔活動報告〕

活動報告 1 協会けんぽにおける離島、山間部の保健事業に関する報告
～小さな一歩から～

○船川由香、六路恵子

全国健康保険協会

活動報告 2 白山山ろく・鶴来地区における在宅医療連携拠点事業の取り組み
～現在の活動～

○彦聖美 1)、村山美奈子 2)

1) 石川県立看護大学、2) 公立つるぎ病院

活動報告 3 島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究

○野口美和子 1)、大湾明美 2)、北村久美子 3)、春山早苗 4)、
山崎不二子 5) 石垣和子 6)

1) 元沖縄県立看護大学、2) 沖縄県立看護大学、3) 旭川大学、4) 自治
医科大学、5) 福岡女学院看護大学、6) 石川県立看護大学

活動報告 4 石川県舩倉島の保健医療

○石垣和子、川島和代

石川県立看護大学

街のたたずまいや暮らしぶりが日々作り変えられている都会と異なり、里山に代表される地方の暮らしはその地域の歴史の痕跡をあちこちに残し、継続性を持ちながらゆっくりと流れている。そのような地域で働く看護職は、その知識・技術を地域の人々の価値観に合わせ、その生活に適合させて用いることによって効果的に役割を果たすことができることがルーラルナーシング学会の発表からも明らかになってきている。

また、医療の高度化が進む一方で在院日数の短縮が求められている今日、地方における地域医療はますます重要性を増している。医師が少なく保健医療福祉の社会資源も乏しい地域では、看護職の果たすべき役割が増大するとともに、住民間の目に見えない助け合いや生活の工夫に教えられることも多い。

本講演では、地方の暮らしにある人間的で穏やかな生き方や生死を浮き彫りにして病む人すべての心の理解につなげ、看護の根底に横たわるホリスティックな目線と、対象となる人との垣根の低さやそこにも同居る姿勢の大切さを再度確かめたいと考えている。

石川県は、平成 25 年 4 月から能登有料道路を無料化し、「のと里山海道」と名付けた。まさに能登地域のような地方の暮らしを維持しつつ、金沢市に象徴されるような先進的な医療にも近づくことを容易にするという希望の道である。一方で、道の無料化のおかげで年々気づかぬうちに地域社会が変化し、ある地域はベットタウン化、ある地域は超過疎化などが加速するかもしれない。一本の道の果たす役割には、功罪両面があると覚悟しておく方が賢明だろう。しかし、この命名には里山の暮らしを尊重するという意図が感じられ、この学術集会のテーマとさせていただいた。道に限らず、企業誘致や駅の新設など地域社会は絶えず動いており、看護職は、地域社会の変化に対する関心は抱き続ける必要はある。住民は究極のところ、ルーラルな地域の生活のかけがえのなさを選択し、ルーラルナーシングの必要性がなくなることは当分ないであろう。

本学術集会のテーマセッションは下記のとおり意図で設けた。本講演でもテーマセッションに通じる考えを述べたいと考えている。

- (1) 病むということは単にからだの一部に病変ができるだけでなく、心身全体の問題であり、それまでの日常と離れ、一人の素の人間に戻ることが大切なのではないだろうか？ そのような観点で、「当たり前な生と死を求めて」というテーマでのシンポジウムにて里山海道での生と死を共有したいと考えている。
- (2) また、若者の都会志向は、生まれ育った地域に住む源家族と離ればなれの生活を意味する。IT の発達著しい今日、どのような機器が開発されているのか、どう使えばいいのか、ラウンドテーブルという形式で市民を交えた意見交換を行いたいと考えている。

- (3) さらに、現在日本では看護職の役割拡大についての議論が盛んであるが、医療過疎地域ではその必要性が特に大きく、どのようなビジョンが描けるのか考えをまとめる時期に来ている。そのためには、海外のへき地での看護職の役割を参考にすることも一助ではないかと考え、「諸外国に見るへき地看護」という交流集会を設ける。

※「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」

感想

[日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会を終えて]

日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会は、全国から207名の参加者を迎えて、活発な意見交換や熱心な討論が各セッション会場でみられた。

特に、助成申請書の「期待される効果・波及効果」として記載した、医療過疎地域で活動する人々の活動を明確に位置づけること、そのことによって活動への誇りを一層涵養する事という点については、特に実践家である看護職から多くの演題登録を得られたことに加えて、研究発表となりにくい演題や活動を広く紹介するために、活動報告というセッションを設けて発表や意見交換の機会を設けたことは、意見交流を一層推進したと思われた。

また、同様に期待される効果として、住民の人々とも僻地でのよりよい“生”を考える機会とするために企画した市民公開（参加費無料）の「ラウンドテーブル」は、「遠く離れて暮らす家族・人々をつなぐ看護システム ～導入事例の紹介と体験、そして意見交流～」というテーマを掲げ、39名の一般市民の方の参加を得た。

このラウンドテーブルは、一般参加者、学会参加者共に、掲げたテーマに強い関心を寄せていただいた一方で、大勢の参加を得られたが故に、十分な意見交流を行うには集団の規模が大きくなりすぎたこと、会場が手狭で、60席まで椅子の増設を図ったが、少ない参加者に対して、他のセッションに参加してもらわざるを得なくなったことは、大変遺憾であり、今後の課題として検討していく必要があると思われた。

また、計画していた60分という時間は十分なディスカッションを行うためには短すぎて、ラウンドテーブル終了後も、話題提供者である講師を囲んでの質疑や、同じ居住地域の住民やその地域の保健医療福祉関係者らが一緒に輪になって、自分たちの地域にどのようにこうしたシステムが導入・活用できるかのディスカッションが活発に行われていた。ある参加者達からは、「自分たちの老後に希望が見えた」という声も聞くことができた。

学会に関する参加者アンケートからは、「(会場及び設備が古いため) スライドが暗くて見にくい」ことや、「交流集会やラウンドテーブルの企画はもっと小規模で意見交流が十分に出来るようにするべき」という指摘がみられたものの、とてもよい学会であったという声も多く頂いた。

今回、貴財団の学会助成を得られたことは、より魅力的な学術集会にするためにはどうすればよいかとぎりぎりまで企画を吟味し、「活動報告」や「ラウンドテーブル(市民公開)」などの企画の充実につながり、多くの参加者から好評を得る結果につながったと考える。また、本学術集会のような小規模で予算的な見込みをたてにくい学会にとって、貴財団の助成金を得られたことは、企画や運営に対して、若干ながらも、余裕を持って進められることにつながり、新たな試みに取り組みやすくなると共に、頂いた助成に見合うように企画等に一層の工夫を凝らす契機になったと思う。